教員養成セミナー2月号
動画講義

12カ月完成
教職・一般教養トレーニング
合格PASSPORT

◆第5回◆教育心理
発達

講師：古川 聡

発達の領域に関して

発達に関する問題の中で出題頻度が高い事項や人物は、

- ジェンセンらの遺伝と環境に関する理論
 - スキャモンの発達曲線をもとにした身体発達
 - エリクソンの心理社会的危機
 - ピアジェの認知発達
 - ボウルビィを中心とした親子関係
 - コールバーグの道徳性発達理論
- ポイントを絞って正確に覚えておくことが求められます

問題例 1

発達の理論と提唱者（東京都 2022年度）

この問題で正解を導くにはキーワードの理解が不可欠です。問題文からキーワードを抜き出すと、

- ① ヴィゴツキー、ライフサイクル、アイデンティティ
- ② シュテルン、認知の発達
- ③ エリクソン、輻輳説
- ④ ゲゼル、成熟優位説
- ⑤ ピアジェ、発達の最近接領域

→この中で人物名とキーワードが一致しているのは④だけ。

遺伝と環境の果たす影響

理論名	提唱者	関連する事項
遺伝説	ゲゼル	一卵性双生児の階段上りの実験、発達診断学を唱えて発達検査の開発に貢献
環境説	ワトソン	行動主義心理学を提唱した人物
輻輳説	シュテルン	遺伝と環境の単純な折衷案
環境閾値説	ジェンセン	特性ごとに発現する環境の閾値が異なるという相互作用説

問題例2

愛着行動の発達（福井県 2020年度）

ビウルビィが提唱した愛着（アタッチメント）の形成過程に関する出題。赤ちゃんの側に立って考えれば、自ずと正解は見えてくるはず。

母性的な養育を受けられなかった時のマターナル・デプリベーションという状況、サイモンズによる親の養育態度の中の残酷型とともに関連づけて覚えておきたい。

アタッチメントの4段階

段階	段階の名称	時期	特徴
第1段階	非弁別的な前愛着段階	生後3ヶ月ほどまで	特定の人物を識別しておらず、たんに人の声や顔に反応する段階
第2段階	弁別的な愛着形成段階	生後6ヶ月ころまで	特定の他者に対して微笑みかけたりする
第3段階	接近と接触の愛着段階	生後6ヶ月から3歳頃まで	特定の他者に接近し、それを維持しようとする
第4段階	パートナーシップの段階	3歳以降	離れていても心の中で特定の人物と絆ができる

問題例 3

ピアジェの認知発達理論（秋田県 2021年度）

認知発達といえば、研究結果に批判はあるものの採用試験ではピアジェの名前と業績を思い出すことが必要で、その研究成果を4つの段階を元にキーワードで覚えておくことが正解への一歩となります。

ピアジェの認知発達の4段階

発達段階	年齢の目安	キーワード
感覚運動期	2歳頃まで	循環反応、物の永続性の理解
前操作期	幼児期	自己中心性、アニミズム、実念論、人工論
具体的操作期	児童期	脱中心化、保存概念の獲得
形式的操作期	青年期以降	数量的イメージの形成、仮説演繹による思考

問題例 4

エリクソンの心理社会的危機

(群馬県 2021年度)

出題頻度が高い人物のひとりがエリクソンです。これまではうまく危機を乗り越えられた時に獲得されるものだけが問われていましたが、最近はどううまく乗り越えられなかった時に陥る状態も空欄補充で問われ流ようになりました。そのため、8つの心理社会的危機の対を順番とともに正確に覚えておいてほしいです。

8つの段階の心理社会的危機

発達段階	心理社会的危機	補足説明
乳児期	信頼対不信	母親との関係が重要
幼児前期	自律性対恥と疑惑	排泄の訓練などを通して獲得
幼児後期	自発性対罪悪感	周囲の環境への働きかけが大事
児童期	勤勉性対劣等感	こつこつ学ぶことを学ぶ
青年期	同一性対同一性拡散	自分は誰かを自問自答
成人前期	親密性対孤独	仲間の存在を通して自己理解
成人後期	世代性対停滞	伝えるものがないと停滞
老年期	統合性対絶望	満足できる人生だったと述懐

問題例 5

コールバーグの道徳性発達理論

(宮崎県 2021年度)

道徳性の発達と言われたら思い出してほしいのが、ピアジェとコールバーグです。その違いは、

- ピアジェ : 幼児期から児童期にかけての変化に注目
紙芝居によって行為の是なくと理由を尋ねた
- コールバーグ : 生涯にわたる変化をとらえる
ジレンマ事態における判断の根拠を尋ねた

3水準6段階からなる道徳性の発達

水準	段階	特徴
前慣習的水準	他律的段階	罰せられることを回避
	個人主義的段階	叱られず褒められることを重視
慣習的水準	对人的規範段階	良い子への強い志向
	社会システム重視段階	社会秩序の維持を重視
後慣習的水準	人権と社会福祉段階	最大多数の最大幸福を目指す
	普遍性を持つ一般的倫理原則段階	社会的な取り決めや法律を正当化するような手続きを重視